令和5年度病害虫発生予察予報第4号（令和5年7月）

令和5年7月4日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
水稲 (早期稲)	いもち病(穂いもち) ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	<u>多(東)</u> 、やや少(中央、中西、西) <u>多(東)</u> 、やや少(中央、中西、西) <u>多(東)</u> 、平年並(中央)、やや少(中西、西) <u>多(東)</u> 、平年並(中央、西)、やや少(中西) <u>多(東)</u> 、やや少(中央、中西、西) <u>多(県下全域)</u>
水稲 (普通期稲)	いもち病(葉いもち) ごま葉枯病 ヒメトビウンカ セジロウンカ	<u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(西) <u>多(西)</u> 、少(東、中央、中西) <u>多(中央)</u> 、やや少(東、中西、西) やや少(中央)、少(東、中西、西)
カンキツ類 (温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 平年並(中央) 少(中央)
カンキツ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(西)</u> 、やや少(東)、少(中央、中西) <u>多(中央、中西)</u> 、やや多(東)、やや少(西) 平年並(中西)、少(東、中央、西) <u>多(東)</u> 、平年並(中央、中西)、少(西) 少(県下全域)
青ネギ	ネギアザミウマ	<u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報（高松地方気象台 6月29日発表）

7月1日から7月31日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。

3～4週目は、高い確率40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	30	30	40
		降水量	20	40	40
		日照時間	40	30	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		20	50	30
3～4週目		30	30	40

<予報の対象期間>

1ヶ月：7月1日(土)～7月30日(日)

1週目：7月1日(土)～7月7日(金)

2週目：7月8日(土)～7月14日(金)

3～4週目：7月15日(土)～7月28日(金)

II 病虫害発生予想

1 早期稲の病虫害

1) いもち病(穂いもち)

予 想 発生量：多(東部)、やや少(中央部、中西部、西部)

根 拠

(1) 6月の調査では、県下全域で葉いもちの発生がみられ、発生面積は県東部で平年よりも多く、その他の地域では少なかった。発病程度は、いずれの地域も平年並以下であった。

(2) 現在、早期稲の主要品種であるコシヒカリの出穂期を迎えているが、四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されていることから、穂いもちの発生は葉いもちよりも増加すると考えられる。

対 策

(1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。

(2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。

2) ツマグロヨコバイ

予想 発生量：多(東部)、やや少(中央部、中西部、西部)

根拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県東部で平年よりも多く、その他の地域では少なかった。また、発生程度はいずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対策

- (1) 近年、本虫が媒介する萎縮病の発生はほとんどみられていないが、出穂期から登熟期にかけて高密度になると実入りが悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

3) ヒメトビウンカ

予想 発生量：多(東部)、平年並(中央部)、やや少(中西部、西部)

根拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県東部で平年よりも多く、中央部でやや少なく、中西部と西部で少なかった。発生程度はいずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないことや高密度になることもほとんど無いため、本虫のみを対象とした薬剤防除の必要性は低い。

4) セジロウンカ

予想 発生量：多(東部)、平年並(中央部、西部)、やや少(中西部)

根拠

- (1) 6月の調査では、県東部、中央部および西部で発生がみられ、発生面積は県東部で平年よりも多く、その他の地域では少なかった。また、発生程度はいずれの地域も平年並以下であった。
- (2) セジロウンカはトビイロウンカと同様に、6～7月に中国大陸等から飛来してくる害虫であるため、未発生地域でも発生が見られるようになると考えられる。また、向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対策

- (1) ほ場内での発生に注意し、高密度になった場合には薬剤防除を実施する。

5) コブノメイガ

予想 発生量：多(東部)、やや少(中央部、中西部、西部)

根拠

- (1) 6月の調査では、県東部で発生が見られ、発生程度は平年よりも高かった。
- (2) コブノメイガはセジロウンカ、トビイロウンカと同様に、6～7月に中国大陸等

から飛来してくる害虫であるため、未発生地域でも発生が見られるようになると考えられる。また、向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 葉色の濃いイネに発生が多く見られるので、穂肥をやりすぎないように注意する。
- (2) 止葉が加害されると収量に影響する。また、登熟期よりも出穂期に加害されると被害が大きくなるので、出穂前～出穂期に防除する。

6) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 6月中旬のアザミウマ類のすくい取り調査時(出穂前)にもクモヘリカメムシ等が捕獲されている。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤(ネオニコチノイド剤等)を用いる。

2 普通期稲の病害虫

1) いもち病(葉いもち)

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中西部)、やや少(中央部)、少(西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、県東部、中央部および中西部で発生がみられ、発生面積は東部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発生程度は、東部で平年よりも高く、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ごま葉枯病

予 想 発生量：多(西部)、少(東部、中央部、中西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、県西部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発病程度は高かった。
- (2) 向こう1か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多いと予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 秋落ち田での発生が多いので、土壌改良や適切な施肥管理を行う。

(2) 病原菌は種籾や被害わらに付着して越冬するので、毎年発生が見られるほ場では薬剤防除を実施する。

3) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(東部、中西部、西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年並であった。
- (2) 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないことや高密度になることもほとんど無いため、本虫のみを対象とした薬剤防除の必要性は低い。

4) セジロウンカ

予 想 発生量：やや少(中央部)、少(東部、中西部、西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも少なく、発生程度は低かった。
- (2) セジロウンカはトビイロウンカと同様に、6～7月に中国大陸等から飛来してくる害虫であるため、未発生地域でも発生が見られるようになると考えられる。また、向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) ほ場内での発生に注意し、高密度になった場合には薬剤防除を実施する。

3 カンキツ(温州ミカン)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年よりもやや高かった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、発生面積は平年よりもやや多かったが、発生程度は平年並であった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されていることから、発

生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生をできるだけ少なくするように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3)ミカンハダニ

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、発生面積、発生程度とも平年並であった。
- (2) 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。本虫は高温期には増殖が緩慢となることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4)カメムシ類

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、園地での発生は見られなかった。また、フェロモントラップ調査での誘殺数は、いずれの地域も平年より少なくなっている。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除を実施する。

4 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

1)そうか病

予 想 発生量：多(西部)、やや少(東部)、少(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、県東部と西部のユズで発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、東部で少なかった。発生程度は、いずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2)黒点病

予 想 発生量：多(中央部、中西部)、やや多(東部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部でやや多く、東部で平年並、西部で少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、中西部、西部で平年並、東部でやや低かった。

(2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生をできるだけ少なくするように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3)かいよう病

予 想 発生量：平年並(中西部)、少(東部、中央部、西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、県中西部の文旦で発生が見られ、発生面積、発生程度とも平年並であった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されているが、台風の来襲がない限り発生増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4)ミカンハダニ

予 想 発生量：多(東部)、平年並(中央部、中西部)、少(西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県東部で平年よりも多く、中央部、中西部で平年並、西部で少なかった。発生程度は、東部で平年よりも高く、その他の地域では平年並であった。
- (2) 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。本虫は高温期には増殖が緩慢となることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5)カメムシ類

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1) 6月の調査では、いずれの地域でも園地での発生は見られなかった。また、フェロモントラップ調査での誘殺数は、いずれの地域も平年より少なくなっている。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除を実施する。

5 青ネギの病害虫

1)ネギアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、全調査ほ場で発生が見られ、発生程度も高かった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並と予想されていることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 同一系統の農薬を連用すると抵抗性が発達しやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)